

IR NAVI

アイアール
ナビ
vol.23



株主の皆様へ／取締役社長 小林喜光

● 第9期決算のご報告

もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス
「APTSIS 15」 Step 2の進捗について

“KAITEKI実現”

チャレンジ!! KAITEKI

人にやさしく、多機能な繊維「ソアロン」でKAITEKIの実現に貢献

証券コード 4188

株主の皆様へ

 株式会社三菱ケミカルホールディングス

第9期 期末のご報告

平成25年4月1日 ▶ 平成26年3月31日

株主の皆様へ



取締役社長

小林 喜光

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期における当社グループの事業環境は、機能商品分野及び素材分野においては、中国や欧州等の景気回復の動きに弱さが見られたものの、海外需要が概ね緩やかな回復基調で推移し、国内の景気も緩やかに回復したこと等により、事業環境は改善しつつあります。また、ヘルスケア分野においては、海外に技術輸出した製品は好調に推移したものの、国内では、ジェネリック医薬品の市場拡大等による影響を受け、環境は厳しさを増しております。このような中で、当社グループは、5か年の中期経営計画「APTSIS* 15」のもと、不採算事業の整理・撤退を加速させるとともに、機能性樹脂事業等の基盤強化・拡大を行うなど、事業構造の改革・転換を進めました。さらに、事業会社間のシナジー創出によるグループ総合力の強化に努めるとともに、収益改善に向けて、徹底したコスト削減、設備投資の見直し、資産圧縮等の諸施策にグループを挙げて取り組みました。

当期の連結業績の詳細は次頁以下に記載の通りであります。売上高は3兆4,988億円となり、利益面では、営業利益は1,104億円、経常利益は1,030億円、当期純利益は322億円となりました。当期の期末配当金につきましては、当期の連結業績、中

長期的な安定配当等を総合的に勘案し、1株につき6円とさせていただきます。

当社グループは、本年4月に発足させた生命科学インスティテュートのもとに、ヘルスケア分野のうち、医薬品を除く事業をヘルスケアソリューション事業として統合し、情報通信技術を用いた健康・医療事業、再生医療等の次世代医療、総合的な創薬・製薬支援等の事業領域において、事業基盤の強化と拡大を図ってまいります。

また、当社は、事業構造の転換の一環として、昨年10月に当社グループの大陽日酸への出資比率を引き上げ、産業ガス、エレクトロニクス等の分野でのシナジーの創出に取り組んでまいりましたが、後記の通り本年5月には、事業基盤と競争力のさらなる強化を図るため、同社の連結子会社化に向けた株式公開買付けを実施することを決定いたしました。

さらに、安全管理の徹底はもとより、コンプライアンスやリスク管理についてさらなる徹底を図ってまいります。

当社グループは、これらの経営諸課題にグループの総力を挙げて対処し、企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月

CONTENTS

■ 株主の皆様へ	1	■ “KAITEKI実現”	
■ 連結業績の概要	2	■ チャレンジ!! KAITEKI	9
■ セグメント別業績	3	■ 財務諸表の概要	11
■ 各事業会社の活動・トピックス	5	■ 株式の状況	13
■ もっと知りたい! 三菱ケミカルホールディングス		■ 会社概要	14
「APTSIS 15」 Step 2の進捗について	7		

*「APTSIS」とは、Agility (俊敏に、とにかく速く)、Principle (原理原則・理念の共有)、Transparency (透明性・説明責任・コンプライアンス)、Sense of Survival (崖っぷちにあるという意識・危機感)、Internationalization (グローバル市場でのパフォーマンス向上)、Safety, Security & Sustainability (製造における安全、品質における安心、情報セキュリティ及び環境対応) のそれぞれの頭文字をとった造語で、当社グループの行動指針です。

連結業績の概要

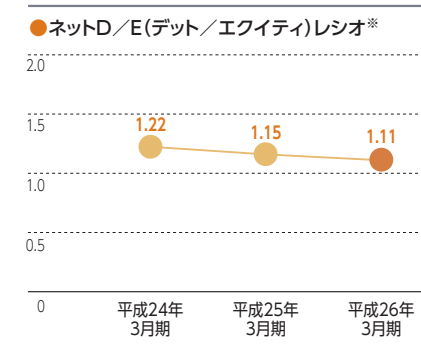
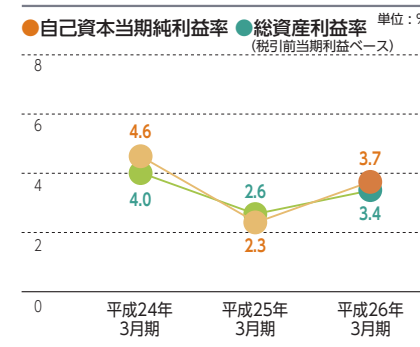
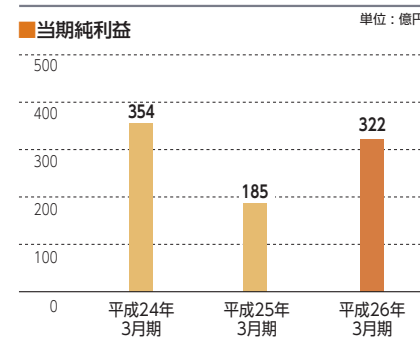
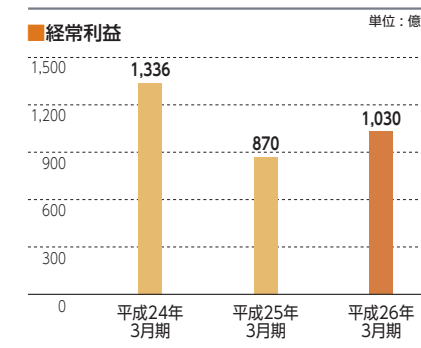
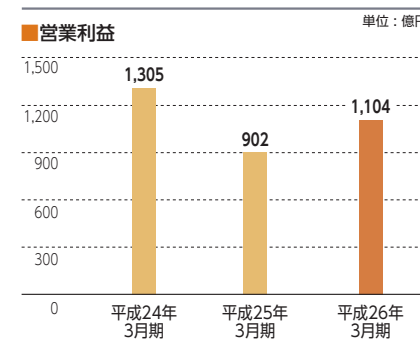
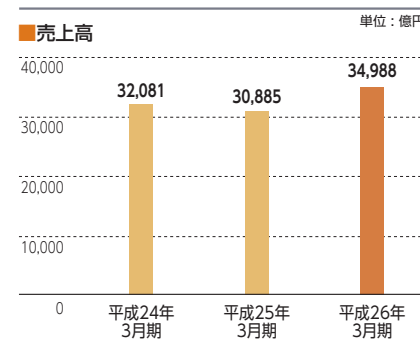
海外需要が緩やかな回復基調で推移し、国内景気も回復して、増収・増益となりました。

円安の影響に加え、内需が回復基調で推移するなど、事業環境に改善の傾向

当期は、円安の影響に加え、国内景気が緩やかな回復傾向で推移するなど、事業環境は改善傾向にありました。当期の連結業績は、売上高は3兆4,988億円（前期比4,102億円増）となり、利益面では、営業利益は1,104億円（前期比202億円増）、経常利益は1,030億円（前期比160億円増）となり、当期純利益は322億円（前期比136億円増）となりました。




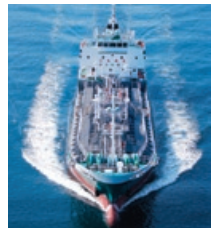
ネットD/Eレシオが0.04ポイント改善

総資産は、円高の修正に伴い海外連結子会社の資産の円貨換算額が増加したこと等により3兆4,793億円（前期末比1,716億円増）となり、また、負債は、円高の修正に伴い海外連結子会社の負債の円貨換算額が増加したこと等により、2兆1,644億円（前期末比600億円増）となりました。この結果、ネットD/Eレシオは1.11となりました。



*ネットD/Eレシオとは、以下の数式によって算出される比率のことで、財務体質の健全性を表す指標の一つです。数値が小さいほど健全性が高いことを示します。
ネットD/Eレシオ = {有利子負債 (割引手形を含む) - (現金・現金同等物+手元運用資金残高)} ÷ 自己資本

セグメント別業績

	単位:億円				三菱化学	田辺三菱製薬	三菱樹脂	三菱レイヨン			
機能商品	<p>エレクトロニクス・アプリケーションズ</p> <p>売上高</p> <p>営業利益</p> <p>売上高構成比 3.8%</p> <p>売上高: 1,181 (平成25年3月期) → 1,336 (平成26年3月期) △50</p> <p>営業利益: △50 (平成25年3月期) → △55 (平成26年3月期)</p>	<p>デザイン・マテリアルズ</p> <p>売上高</p> <p>営業利益</p> <p>売上高構成比 22.6%</p> <p>売上高: 6,897 (平成25年3月期) → 7,909 (平成26年3月期)</p> <p>営業利益: 225 (平成25年3月期) → 465 (平成26年3月期)</p>							<p>エレクトロニクス・アプリケーションズ 《売上高》1,336億円(154億円増) 記録材料…海外子会社の会計期間の変更等による売上げ増加 電子関連製品…半導体向け精密洗浄・ウエハー再生等の事業が低調 情報機材…OPC、トナーの需要は概ね横ばい 《営業損益》△55億円(4億円損失増) 販売価格の低下により減益</p>	<p>デザイン・マテリアルズ 《売上高》7,909億円(1,011億円増) 食品機能材…順調に推移 電池材料…自動車用電池向けの販売数量が増加傾向 樹脂加工品…タッチパネル向けフィルムの販売が好調に推移 複合材…アルミナ繊維等の販売が順調に推移 《営業利益》465億円(239億円増) 販売数量の増加等により増益</p>	
ヘルスケア	<p>ヘルスケア</p> <p>売上高</p> <p>営業利益</p> <p>売上高構成比 15.1%</p> <p>売上高: 5,143 (平成25年3月期) → 5,312 (平成26年3月期)</p> <p>営業利益: 749 (平成25年3月期) → 682 (平成26年3月期)</p>							<p>ヘルスケア 《売上高》5,312億円(169億円増) 医薬品…ジェネリック医薬品の影響拡大による長期収載品の売上高の減少 診断製品及び臨床検査…診断検査事業の販売が増加 製剤材料…クオリカプスの連結子会社化により新たに売上げを計上 《営業利益》682億円(66億円減) 研究開発費等の増加により減益</p>			
素材	<p>ケミカルズ</p> <p>売上高</p> <p>営業利益</p> <p>売上高構成比 27.2%</p> <p>売上高: 9,036 (平成25年3月期) → 9,550 (平成26年3月期)</p> <p>営業利益: △2 (平成25年3月期) → 7 (平成26年3月期)</p>	<p>ポリマーズ</p> <p>売上高</p> <p>営業利益</p> <p>売上高構成比 24.5%</p> <p>売上高: 6,756 (平成25年3月期) → 8,584 (平成26年3月期)</p> <p>営業利益: 1 (平成25年3月期) → 23 (平成26年3月期)</p>						<p>ケミカルズ 《売上高》9,550億円(514億円増) 基礎石化製品…エチレンの生産量114万トン(0.6%増) 合成繊維原料…販売数量が増加 炭素製品…原料炭価格の低下に伴うコークスの販売価格の低下により売上げが減少 《営業利益》7億円(9億円増) 固定費の削減により増益</p>	<p>ポリマーズ 《売上高》8,584億円(1,827億円増) 合成樹脂…原燃料価格の上昇を受け販売価格を是正 機能性樹脂の需要が堅調に推移し、増益</p>		
その他	<p>その他</p> <p>売上高</p> <p>営業利益</p> <p>売上高構成比 6.5%</p> <p>売上高: 1,869 (平成25年3月期) → 2,294 (平成26年3月期)</p> <p>営業利益: 64 (平成25年3月期) → 56 (平成26年3月期)</p>							<p>その他 《売上高》2,294億円(424億円増) 物流事業…外部受注が減少 エンジニアリング事業…概ね堅調に推移 《営業利益》56億円(8億円減) 外部受注の減少等により減益</p>			

()内の数字は対前期比

各事業会社の活動・トピックス

三菱化学

機能商品

- パイオニアと共同で、有機EL照明パネル販売のための合併会社を設立し(昨年6月)、世界初の発光層塗布型有機EL照明モジュールの量産出荷を開始(本年3月)
- 有機薄膜太陽電池外壁ユニットを開発し、大成建設と共同で、都市型ゼロエネルギービルの実現に向けた実証試験を開始(本年3月)



発光層塗布型有機EL照明モジュール

ヘルスケア

- 三菱化学メディエンス*の体外診断薬「パスファースト Presepsin」で測定する敗血症の新規バイオマーカーであるプレセプシンの検査の保険適用が開始(本年1月)
- *三菱化学メディエンスは、本年4月1日付でLSIメディエンスに商号を変更しました。

素材

- 機能性樹脂事業の基盤強化と拡大を図るため、北米及び欧州において、それぞれコムトレックス社(米国)及びテッセンデルロ社(ベルギー)から樹脂コンパウンド事業を買収(昨年4月、6月)
- 植物由来高機能バイオエンプラ「DURABIO」が、スズキの「ハスラー」の内装カラーパネルに採用(本年1月)



「ハスラー」内装のオレンジ色カラーパネル

田辺三菱製薬

ヘルスケア

- ワクチンの研究開発を行うメディカゴ社(カナダ)を買収し、連結子会社化(昨年9月)
- 2型糖尿病治療剤「テネリア錠20mg」について、効能一部変更承認を取得し、既存の経口血糖降下薬及びブインスリン製剤との併用療法が可能に(昨年12月)
- 新規アルツハイマー型認知症治療剤「MT-4666」について、フォーラムファーマシューティカルズ社(米国)が主導する国際共同第3相試験に参画(本年2月)
- 昨年5月に国内での製造販売の承認を申請した新規2型糖尿病治療剤「TA-7284」(カナグリフロジン)について、日本薬学会創薬科学賞を受賞(本年3月)

三菱樹脂

機能商品

- 平塚工場において、アルコール飲料や調味料等の容器として使用されるハイバリアPETボトルの製造ラインを新設することを決定(昨年4月)
- エンジニアリングプラスチック製品の製造・販売を行うクオドラント社(スイス)の持株会社であるアクアミット社(オランダ)を完全子会社化(昨年5月)
- 光学用ポリエステルフィルムの加工製品の製造・販売を行う三菱樹脂光学薄膜(無錫)社(中国)を設立(昨年10月)



ハイバリアPETボトルの用途例

- 浅井工場において、共押出多層フィルム「ダイアミロン」の製造ラインの増設を決定(昨年12月)
- エムシー・ペットフィルム・インドネシア社(インドネシア)が、紙おむつのバックシート等に使用される透湿性フィルム「KTF」の製造ラインを新設することを決定(本年1月)



共押出多層フィルム「ダイアミロン」の用途例

三菱レイヨン

機能商品

- たばこフィルター用のアセテート・トウの製造を行う富山フィルタートウの株式の一部をダイセルに譲渡し、同社の合併化を完了(昨年5月)
- 浙江清華長三角研究院(中国)と共同で、産業排水処理技術の研究を目的として、「浙江清華長三角研究院-MRC膜分離水処理技術開発センター」を設立(昨年6月)
- 地下水膜ろ過システム事業を行うウェルシィの株式の過半数を取得し、連結子会社化(昨年12月)
- 欧州及びアジア等で炭素繊維強化プラスチック製自動車部品の製造・販売を行うアクション・コンポジット・インターナショナル社への出資を決定(本年1月)

素材

- ルーサイト・インターナショナル(チャイナ)ケミカル・インダストリー社(中国)が、MMAモノマーの製造設備の増強を決定(昨年10月)

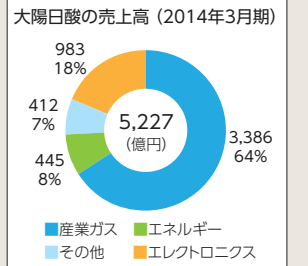
太陽日酸に対する株式公開買付けの実施を決定

当社は、昨年10月に当社グループの出資比率を引き上げた太陽日酸との資本提携関係をさらに強化し、同社を連結子会社とする株式公開買付けを、本年11月をめどに実施することを決定しました。

太陽日酸は、産業ガスメーカーとして国内最大手の会社であり、産業ガス事業を当社グループのポートフォリオに組み入れ、事業構造の転換を進めていきます。さらに、両社のグローバルな経営資源を結集することによって、製造・販売拠点やサプライチェーンの相互活用、新規立地での協業を進めるとともに、エレクトロニクス、メディカル、ヘルスケア等の分野においてシナジーの追求、新商品の開発に取り組み、双方の企業価値の向上を図ります。



調印式で握手する小林社長と田邊太陽日酸社長



日本政策投資銀行から最高ランクの環境格付を取得し、特別表彰を受賞

当社は、昨年12月、日本政策投資銀行の環境格付評価で最高ランクの格付を取得するとともに、特別表彰を受賞しました。

これは、環境負荷低減、資源の持続可能な利用等への貢献度をMOS指標*で定量的に評価し、その向上を目指していることなどが評価されたもので、上記格付に基づき、当社は、日本政策投資銀行から優遇金利での融資を受けることが可能となりました。



特別表彰授与式にて

*MOS指標は、人や社会、そして地球のサステナビリティ(持続可能性)の向上を目指した当社独自の新しい経営指標です。

「APTSIS 15」 Step 2の進捗について

当社グループの中期経営計画「APTSIS 15」 Step 2の進捗状況をご報告します。

機能商品

次世代アグリビジネスの展開



当社グループでは、将来の成長事業として、三菱化学と三菱樹脂がそれぞれ次世代アグリビジネスのグローバル展開を推進しています。

三菱化学は、水耕栽培技術をシステム化した完全人工光型植物工場の市場拡大を進めています。三菱化学が有するLED照明技術や有機薄膜太陽電池、三菱レイヨンの水処理システム等のシナジーを發揮し、外界から隔離した設備の中、最適な条件下で、安定的かつ効率的な植物栽培が実現できます。同植物工場は、国内をはじめ、中東やロシア等の海外でも販売を拡大しています。



完全人工光型植物工場

一方、三菱樹脂アグリドリームは、コンピュータで管理されたビニールハウスの中で太陽光と養液で水耕栽培を行う太陽光利用型植物工場を展開しています。また、害虫の入らない高機能フィルムを使用するため、無農薬で野菜を栽培できます。同社は、中国で植物工場システムの事業化を進めるとともに、オーストラリアでは栽培した野菜のテスト販売を行っています。



オーストラリアで収穫した野菜

ヘルスケア

新薬の開発推進とワクチン事業の強化



田辺三菱製薬は、新薬の開発を推進するとともに、昨年9月にメディカゴ社（カナダ）を連結子会社化し、ワクチン事業のパイプラインの強化を進めました。

その他、国内外における主な開発品及び導出品の進捗については、以下の通りです。

【自社開発品】			
ピンドレン	高リン血症	2013年4月 販売開始（欧州）	
TA-7284	2型糖尿病	申請中（日本）	
イムセラ（FTY720）	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の効能追加	フェーズ3試験（国際共同試験）	日本はノバルティスファーマと共同開発。海外はノバルティス社（スイス）に導出
MT-4666	アルツハイマー型認知症	フェーズ3試験（国際共同試験）	フォーラムファーマシューティカルズ社（米国）から導入
MT-3995	糖尿病性腎症	フェーズ2試験（日本・欧州） フェーズ1試験（米国）	
MT-1303	多発性硬化症	フェーズ2試験（欧州）	
	乾癬	フェーズ2試験（欧州）	
	炎症・自己免疫疾患	フェーズ1試験（日本・欧州・米国）	
インフルエンザワクチン	インフルエンザ（H5N1）の予防	フェーズ2試験（カナダ）	メディカゴ社の子会社化に伴い、追加
【導出品】			
TA-7284	2型糖尿病 メトホルミンとの合剤（即放性製剤）	2014年2月 販売開始（欧州） 2014年4月承認（欧州）	ヤンセンファーマシューティカルズ社（米国）に導出
TA-1790	勃起不全	2013年12月 販売開始（米国） 2014年3月 販売開始（欧州）	ヴィーヴァス社（米国）に導出

（2014年5月8日現在）

素材

グローバル事業の強化



三菱レイヨンは、2011年5月にサウジ基礎産業公社（サウジアラビア）との間で、MMAモノマー及びアクリル樹脂成形材料の製造を目的とする合弁会社の設立に基本合意し、その後の協議を経て、本年3月、サウジ基礎産業公社と折半出資で合弁会社を設立することを決定しました。

本合弁会社は、三菱レイヨン独自の新しいエチレン法を用いた大型プラント（MMAモノマー25万トン/年）を建設する予定であり、安価なエタンガス由来のエチレンを原料として、圧倒的なコスト競争力を有するMMAモノマー及びアクリル樹脂成形材料を製造することを目的としています。

これにより、三菱レイヨンは、東欧・インド・中東・アフリカ等の新興国市場への拠点を確立し、MMAチェーン事業におけるグローバルトップの地位をさらに強固なものとしします。



サンシャイン水族館（サンシャインラグーン）にアクリル樹脂が使用されています。

エチレンセンターの最適生産体制の確立



三菱化学は、2011年4月から旭化成ケミカルズと共同で水島地区のエチレンセンターの共同運営を行ってまいりましたが、本年2月、両社は、競争力を強化し収益力を確保するため、2016年4月をめどに同センターを三菱化学の設備1基とし、両社間で設立する合弁会社に集約することに合意しました。

集約後は、同合弁会社が、需要動向に見合った最適生産体制による効率的な事業運営を実施します。

生命科学インスティテュートの発足



当社は、本年4月、生命科学インスティテュートを設立し、ヘルスケア分野のうち、医薬品を除く事業をヘルスケアソリューション事業として同社のもとに統合しました。これに伴い、同事業を担うLSIメディエンス（本年4月1日付で三菱化学メディエンスから商号を変更）、エーピーアイコーポレーション（本年4月1日付で三菱化学にファインケミカル事業を移管）、クオリカプス及び健康ライフコンパスの4社が生命科学インスティテュートの子会社となりました。

当社は、三菱化学、田辺三菱製薬、三菱樹脂、三菱レイヨンの4つの事業会社に加え、生命科学インスティテュートを5番目の事業会社とし、同社を通じ、情報通信技術（ICT）を用いた健康・医療事業、再生医療等の次世代医療、総合的な創薬・製薬支援等の事業領域において、ヘルスケアソリューション事業の基盤の強化・拡大を図ってまいります。

生命科学インスティテュートの概要

事業領域	
1. 健康・医療ICT事業	健康検診等、健康に関する情報を活用し、予防、健康維持・増進サービスを提供
2. 次世代医療事業	再生医療、在宅・遠隔医療、個別化医療等の次世代医療の実現
3. 創薬・製薬支援事業	創薬研究・開発プロセスに関する種々の機能を一括して提供

資本金	30億円
売上高（連結）*	約1,210億円
従業員数（連結）*	約5,100名

*2014年3月期/3月末現在の各社の合計値

本社ビル「THE KAITEKIビル」
（東京都千代田区）



“KAITEKI実現” 「協奏による、さらなる成長・創造と飛躍」

KAITEKIとは、時を超え、世を超え、人と社会と地球の心地よい状態が持続することです。そのKAITEKI実現に向けて当社グループは取り組みを行っています。

水にこだわった「MIZUcafé PRODUCED BY Cleansui」をオープン

MIZUcafé

PRODUCED BY **Cleansui**

当社グループの三菱レイヨン・クリンスイは、昨年12月、水にこだわったフード・ドリンク、リラクゼーションなどKAITEKIを提供する「MIZUcafé PRODUCED BY Cleansui」をオープンしました。

三菱レイヨン・クリンスイは、1984年に世界で初めて中空糸膜を採用した家庭用浄水器「クリンスイ」を発売。水を通じて人々の生活を豊かにすることを目指し、災害用保存水や定期宅配水ビジネスへの参入など事業領域を拡大してきました。

「MIZUcafé PRODUCED BY Cleansui」は、“さまざまなこだわりのお水を体感できるカフェ”をコンセプトに、実際に体験し、実感していただけるお客様とのコミュニケーションの場となっています。

カフェで提供のお水は、クリンスイ(浄水)のほか、アルカリイオン水、炭酸水の3種類から選ぶことがで



MIZUcafé店内

きます。料理にも、食材や調理法に合わせ、水を使い分けています。また、利き水スタイルで、クリンスイ(浄水)と水道水の飲み比べ*や話題の炭酸泉を使用したハンドSPAが体験でき、浄水器などクリンスイ商品の販売もしています。

さらに、本カフェ限定でお楽しみいただける「クリンスイ仕込 獺祭 純米大吟醸 磨き三割九分」をはじめとして、三菱レイヨン・クリンスイとさまざまな企業とのコラボレーションによる商品やサービスをご紹介します。

*クリンスイ(浄水)と水道水の飲み比べは、11時30分から14時を除く時間にお試しいただけます。

【店舗情報】

住所:東京都渋谷区神宮前6-34-14 原宿表参道ビル1階

営業時間:10:00~22:00 年中無休

TEL:03-6427-9351

ホームページ:<http://mizucafe.jp>



クリンスイ仕込 獺祭(数量限定品)



炭酸泉のハンドSPA(無料体験)



チャレンジ!! KAITEKI 06

人にやさしく、多機能な繊維「ソアロン」で KAITEKIの実現に貢献

三菱レイヨンだけのオンリーワン製品

ソフトな風合い、絹のような光沢、抜群の発色性、そんな優れた性質を持つ繊維「ソアロン」。

ソアロンは、世界で三菱レイヨンだけが生産するトリアセテート長繊維です。1967年に、日本で生産が開始されて以来、ファッションの創造性を高める画期的な繊維として常に注目され、業界においても高い評価を得てきました。

天然繊維と合成繊維の良さを併せ持つ

ソアロンは、高純度の天然パルプを主な原料とし、パルプに含まれている繊維素を酢酸で反応させて作ります。そのため、天然素材が持つやさしい肌触りや風合いと、合成繊維の快適性を併せ持った「半合成繊維」となっています。

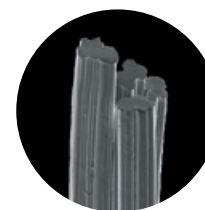
半合成繊維という性質により、天然素材によるやわらかな風合いの他、繊維表面にあるランダムな溝が光を拡散し、やわらかく自然な絹のような光沢が生まれます。さらに、発色性の良さから鮮やかで透明感のある色の表現が可能になります。

また、熱セット性が高くシワになりにくいので、お手入れがしやすいだけでなく、吸水性と速乾性に優れているため、夏でもさわやかな着心地を演出します。

環境にも配慮

ソアロンは、環境への配慮を優先し、森が備える自然の再生力を高め、持続可能なように管理された樹木(天然パルプ)を原料として使用しています。

三菱レイヨングループは、ソアロンで人々の暮らしを演出するだけでなく、これからのライフスタイルを提案し、KAITEKIの実現に向けて、一層努力していきます。



ソアロン繊維

トリアセテート長繊維「ソアロン」のここが KAITEKI

バイオマスマークの認定取得

ソアロンは原料に天然パルプを使用し、バイオマスマークの認定を受けています。

高級感のあるファッションを実現

絹のようなやわらかな光沢と、発色性の良さに加え、ゆったりとした美しいひだを作ることができるので、繊細なデザイン表現と高級感を演出します。

手入れのしやすさを実現

水にぬれても膨潤しにくいので縮みにくく、熱セット性が高いためシワになりにくいので、家庭で洗濯が可能です。



財務諸表の概要

連結貸借対照表

科目	(単位:億円)		科目	(単位:億円)	
	当期 [平成26年3月31日現在]	前期 [平成25年3月31日現在]		当期 [平成26年3月31日現在]	前期 [平成25年3月31日現在]
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	15,634	14,566	流動負債	12,593	12,537
現金・預金	1,376	1,159	支払手形・買掛金	4,134	4,169
受取手形・売掛金	6,157	5,882	短期金融債務	5,654	5,455
たな卸資産	5,911	5,469	その他	2,805	2,912
その他	2,210	2,075	固定負債	9,051	8,506
貸倒引当金	△ 21	△ 19	長期金融債務	6,927	6,532
固定資産	19,159	18,511	その他	2,123	1,974
有形固定資産	11,180	10,615	負債合計 Point 2	21,644	21,044
投資有価証券	3,335	3,538	(純資産の部)		
のれん	1,800	1,799	株主資本	8,495	8,354
その他	2,842	2,557	資本金	500	500
資産合計 Point 1	34,793	33,077	資本剰余金	3,177	3,176
			利益剰余金	4,936	4,790
			自己株式	△ 117	△ 112
			その他の包括利益累計額	512	△ 199
			新株予約権	4	5
			少数株主持分	4,135	3,872
			純資産合計	13,148	12,033
			負債及び純資産合計	34,793	33,077

連結株主資本等変動計算書

当期 [自平成25年4月1日 至平成26年3月31日]

(単位:億円)

科目	株主資本					その他の 包括利益 累計額	新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計				
平成25年4月1日残高	500	3,176	4,790	△ 112	8,354	△ 199	5	3,872	12,033
当期中の変動額									
剰余金の配当			△ 177		△ 177				△ 177
当期純利益			322		322				322
その他		0	△ 0	△ 4	△ 4				△ 4
株主資本以外の項目の当期中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	712	△ 0	263	974
当期中の変動額合計	—	0	145	△ 4	140	712	△ 0	263	1,115
平成26年3月31日残高	500	3,177	4,936	△ 117	8,495	512	4	4,135	13,148

連結損益計算書

(単位:億円)

科目	(単位:億円)	
	当期 [自平成25年4月 1日 至平成26年3月31日]	前期 [自平成24年4月 1日 至平成25年3月31日]
売上高	34,988	30,885
売上原価	27,914	24,401
販売費・一般管理費	5,969	5,581
営業利益	1,104	902
営業外収益	309	323
営業外費用	382	355
経常利益	1,030	870
特別利益 Point 3	308	212
特別損失	173	253
税金等調整前当期純利益	1,165	829
法人税、住民税及び事業税	432	435
過年度法人税等	26	—
法人税等調整額	105	△ 33
少数株主利益	280	241
当期純利益	322	185

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	(単位:億円)	
	当期 [自平成25年4月 1日 至平成26年3月31日]	前期 [自平成24年4月 1日 至平成25年3月31日]
税金等調整前当期純利益	1,165	829
減価償却費	1,315	1,295
たな卸資産	△ 183	△ 241
営業債権債務他	△ 528	182
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,770	2,065
有形・無形固定資産取得	△ 1,350	△ 1,352
有価証券・投資有価証券取得 Point 4	△ 1,309	△ 1,255
その他	1,062	910
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,597	△ 1,697
有利子負債	221	77
配当金他	△ 304	△ 339
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 83	△ 262
現金・現金同等物に係る換算差額	175	88
現金・現金同等物の増減	264	193
現金・現金同等物の期首残高	1,531	1,330
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	—	7
現金・現金同等物の期末残高	1,795	1,531

Point 1 **資産合計**
資産合計は、主に円高の修正に伴い海外連結子会社の資産の円貨換算額が増加したことにより増加しています。

Point 3 **特別利益**
主に田辺三菱製薬が販売する医薬品の供給価格に関する仲裁裁定に伴う特別利益の計上により増加しています。

Point 2 **負債合計**
負債合計は、主に円高の修正に伴い海外連結子会社の負債の円貨換算額が増加したことにより増加しています。

Point 4 **有価証券・投資有価証券取得**
有価証券・投資有価証券取得は、主に大陽日酸の増資等の引き受け、メディカゴ社の連結子会社化及びアクアミット社の完全子会社化により増加しています。

株式の状況

株式の状況 (平成26年3月31日現在)

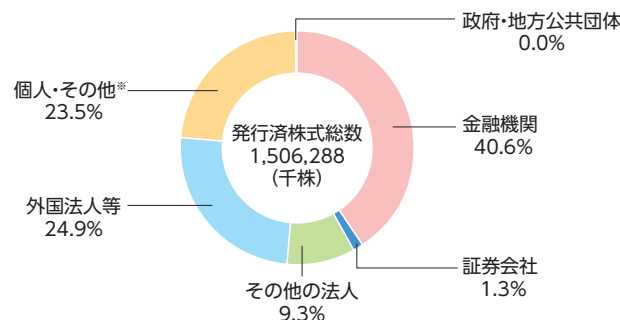
会社が発行する株式の総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	1,506,288,107株
株主総数	179,098名

大株主 (平成26年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	71,279	4.8
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	63,096	4.2
日本生命保険相互会社	45,969	3.1
株式会社三菱東京UFJ銀行	41,105	2.7
武田薬品工業株式会社	38,344	2.5
東京海上日動火災保険株式会社	29,911	2.0
太陽生命保険株式会社	24,708	1.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	23,325	1.5
株式会社みずほ銀行	17,695	1.1

※上記のほか、当社が自己株式として31,382千株を保有しておりますが、上記出資比率には自己株式を控除しております。

所有者別株式分布の状況 (平成26年3月31日現在)



※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(2.0%)が含まれております。

会社概要

会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス
(英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)

本店所在地 〒100-8251
東京都千代田区丸の内一丁目1番1号
(パレスビル)
電話 03-6748-7200

資本金 500億円

取締役 (平成26年6月25日現在)

小林 喜光	代表取締役 取締役社長
津田 登	代表取締役 副社長執行役員 広報・IR室(広報)、総務室、 内部統制推進室分担 コンプライアンス推進統括執行役員
石塚 博昭	取締役
三津家正之	取締役
姥貝 卓美	取締役
越智 仁	取締役
ルン・フルリクソ	取締役 常務執行役員 R&D戦略室分担
橘川 武郎	取締役

※橘川武郎氏は、社外取締役であり、また、当社は社外取締役の同氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

監査役 (平成26年6月25日現在)

中田 章	常勤監査役
山口 和親	常勤監査役
西田 孝	常勤監査役
渡邊 一弘	監査役 弁護士
伊藤 大義	監査役 公認会計士

※西田 孝、渡邊一弘、伊藤大義の3氏は、社外監査役であり、また、当社は社外監査役の3氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、届け出ております。

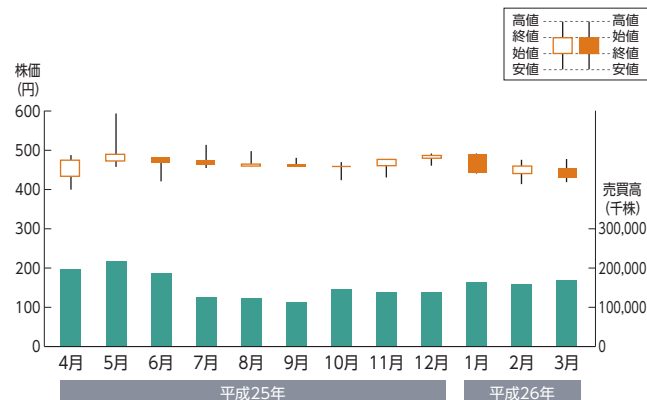
執行役員 (平成26年6月25日現在)

大平 教義	専務執行役員	人事室長
唐津 正典	専務執行役員	グループ基盤強化室 (製造・レスポンスブルケア、 購買、物流、エンジニアリング 担当)
小酒井健吉	常務執行役員	経営管理室、 広報・IR室(IR)分担 グループ基盤強化室 (情報システム、共通基盤強化担当)
田中 良治	常務執行役員	経営戦略室長 グループ基盤強化室 (エリア戦略、マーケティング、 自動車関連事業推進担当)
池川 喜洋	執行役員	CEOオフィス部長
浦田 尚男	執行役員	R&D戦略室長
長田 雅宏	執行役員	経営管理室長
瀬川 拓	執行役員	中国総代表
二又 一幸	執行役員	CEOオフィス部長

配当の状況

1株当たり配当金(円)			
	平成24年 3月期	平成25年 3月期	平成26年 3月期
中間	5	6	6
期末	5	6	6
合計	10	12	12

株価・株式売買高の推移(東京証券取引所)



当社IRサイトをご活用下さい。
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>



当社ホームページでは、プレスリリースや経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用下さい。

三菱ケミカル

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
◎ 公告掲載URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 (〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- 郵便物送付先及び電話お問合せ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号 (〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

上場株式等の配当等に関する『源泉徴収税率』変更のご案内

証券税制における軽減税率の適用終了に伴い、2014年1月1日以降に支払われる上場株式等の配当等には、原則として20%（所得税15%、住民税5%）の源泉徴収税率が適用されます。また、復興財源確保法（略称）により、2037年12月31日まで、復興特別所得税として所得税額×2.1%が追加課税されます。

	2014年～2037年
所得税	15%
復興特別所得税	0.315%
住民税	5%
合計	20.315%

- 源泉徴収が行われる場合の税率です。但し、内国法人の場合は住民税が徴収されません。
- 詳細につきましては、最寄の税務署、税理士等にお問合せ下さい。
- 本ご案内は2014年6月時点の情報をもとに作成しています。

2014年1月1日より
単元株式数を変更いたしました。

100株単位での株式の売買が可能です。

IR NAVI アイアール ナビ とは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報（IR情報）をよりわかりやすく株主の皆様ナビゲート（ご案内）していきたいという意味を込めております。

